

新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議

報告書（案）

令和4年1月

新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議

目 次

はじめに

1	「公立高等学校の特色化・魅力化を図るための方策」についての提言……………	1
2	「公立高等学校の協働的な学びの確保に向けた方策」についての提言……………	3
3	「公立高等学校の地域の拠点としての施設の利活用の方策」についての提言…	5

資料

資料 1	新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議開催経過……………	7
資料 2	県内中学 3 年の生徒数の推移（予測）……………	8
資料 3	高等学校・中等教育学校の配置図……………	8
資料 4	公立高等学校・県立中等教育学校及び県立中学校の設置状況……………	9
資料 5	最近の高校再編……………	11
資料 6	最近の学科再編，新学科の設置等……………	12
資料 7	新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議設置要綱……………	13
資料 8	新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議委員一覧……………	14
※参考資料	徳島県公立高等学校・中等教育学校のスクール・ミッション一覧……………	15

はじめに

国の中央教育審議会では、令和4年度から新しい高等学校学習指導要領が年次進行で実施されることを見据えて、スクール・ミッションの再定義やスクール・ポリシーの策定、個別最適な学びと協働的な学びの実現、さらには「普通教育を主とする学科」の弾力化等、新時代に対応した高等学校教育の在り方が示された。

また、「経済財政運営と改革の基本方針2018」（平成30年6月閣議決定）では、「地域振興の核としての高等学校の機能強化」を進めること等が重要課題への取組として位置づけられ、さらに、地方創生の目指すべき将来や基本目標、施策の方向性等を取りまとめた第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（令和元年12月閣議決定）においては、「地域の将来を支える人材育成の要となる高等学校の機能強化」の方策として、高等学校と地域、産業界との連携・協働による取組等の推進が盛り込まれた。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を機に、東京一極集中のリスクが顕在化し、地方での暮らしが注目を集める中、それぞれの地域に根づいた各高校において、特色化・魅力化を図ることは、子供たちにとって目的意識の明確な進路選択や、地域を知る機会の創出に結びつくとともに、地方創生の推進にもつながると考えられる。

県教育委員会によると、本県では、少子化に伴い生徒数が減少する中、平成18年3月に「高校再編方針」を策定し、県内唯一となる体育科（学科名「スポーツ科学科」）の設置や、6次産業化に対応した高校の創設等、専門学科を有する高等学校を中心に再編を進め、平成30年度をもって区切りを迎えたとのことである。

普通科を有する高等学校においても、課題解決型の学習に取り組む理数科（学科名「探究科」）や、林業関係の人材育成に取り組む農業科（学科名「森林クリエイト科」）といった専門学科の設置、さらには、人口減少が著しい地域にある学校の活性化や地域にある高等教育機関との連携に取り組んでいる。

また、令和2年度からは、通学区域制を見直すとともに、高校生にも1人1台端末を整備する徳島県GIGAスクール構想の推進や、コミュニティ・スクール導入の促進等、各高校の特色化を支援する環境の整備も進めているとのことである。

一方で、少子化に伴う生徒数の減少に対応するとともに、DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、未知なる世界を自ら切り拓き、持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえて、「持続可能な社会」を創造する人財を育成するためにも、普通科高校を含む「各高校における教育活動の方向性」を、より一層明確にする必要があるとの認識を県教育委員会は有している。

こうした状況を踏まえ、徳島県教育委員会は、令和３年１月８日に施行された「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議設置要綱」に基づき、学識経験者や学校関係者からなる「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」を開催した。令和２年２月に開催した第１回会議では、県教育委員会教育長から、１０年先、２０年先を見据えた「本県公立高等学校の目指すべき将来像」について、あらゆる角度から検討するよう要請が行われた。

本会議では、この要請を受け、令和３年２月から令和４年１月までの間に計６回の会議を開催し、次に示す３点について様々な立場から多角的に議論を重ねてきた。

- （１）公立高等学校の特色化・魅力化を図るための方策
- （２）公立高等学校の協働的な学びの確保に向けた方策
- （３）公立高等学校の地域の拠点としての施設の利活用の方策

この度、検討結果を報告書として取りまとめるに至ったので報告する。県教育委員会においては、本報告を基に議論を進め、本県公立高校の目指すべき将来像についての具体的な取組を実行されることを期待する。

1 「公立高等学校の特色化・魅力化を図るための方策」についての提言

<提言>

- (1) 各高校の存在意義等を示すスクール・ミッションや、教育活動の指針となるスクール・ポリシーを早急に策定し、中学生や保護者に伝わりやすい方法で広報することが望ましい。
- (2) スクール・ミッション、スクール・ポリシーは、「徳島教育大綱」を具現化し、当該校の取組をさらに発展させる形で策定するとともに、それらに基づく教育活動の評価を行い、教育活動の改善につなげることを期待する。
- (3) 普通科の特色化・魅力化に向けて、特長がわかりにくい普通科においては、多様な教育活動を取り入れるなど、より一層の工夫を期待したい。

<検討の経緯>

第1回の検討会議では、高等学校の特色化・魅力化について協議し、普通科の特色化・魅力化やスクール・ミッション、スクール・ポリシーの策定について意見が出された。

その中でも、スクール・ミッションや、スクール・ポリシーの策定は、中学生の目的意識を持った進路選択や、各高校の特色化・魅力化に有効であるとの認識が示され、第2回及び第3回会議では、主にそれらの策定に向けた議論を行った。

なお、スクール・ミッション及びスクール・ポリシーは、本検討会議での提言が反映される形で、報告書の提出を待たず、それぞれ令和3年4月と同年6月に策定された。

本検討会議では、このような経緯を踏まえて、公立高等学校の特色化・魅力化を図るための方策について取りまとめた。

<考え方及び留意事項－提言(1)について－>

- スクール・ミッションやスクール・ポリシーの策定は、中学生の目的意識を持った進路選択に有効であり、早急に策定することが望ましい。
- ビジョンが明確で組織内に浸透している企業が活躍するように、スクール・ミッションを早期に策定し、教職員間で共有することで魅力化が図られることを期待する。
- スクール・ミッション、スクール・ポリシーについて、SNSの活用や動画による情報提供をするなどして、見やすさ・分かりやすさの視点から工夫して広報してほしい。
- 県教育委員会が各高校のスクール・ミッションを公表することで、学校の序列化が進むようなことがないように配慮すべきである。

＜考え方及び留意事項－提言（２）について－＞

- 「徳島教育大綱」には、育成を目指す人財の具体像が掲げられている。これを実際の教育の中で具現化するとともに、当該校のそれまでの取組をベースにしてスクール・ミッションを策定する必要がある。
- 学校運営協議会や、学校教育法第４２条に基づき実施している「学校評価」を有効に活用して、スクール・ポリシー及びそれに基づく教育活動の改善につなげることが有効だと考えられる。
- スクール・ミッション及びスクール・ポリシーを大きく見直す時期は、徳島教育大綱や教育振興計画の改定時期と連動させることが望ましい。

＜考え方及び留意事項－提言（３）について－＞

- 特長がわかりにくい普通科は、より一層の特色化・魅力化に向けた創意工夫を期待したい。また、中学生や保護者、あるいは産業界等からニーズがあるかどうかという観点から、教育内容を検討する視点も必要である。
- 学習活動の特色化・魅力化の推進に加え、部活動を含めた学校教育活動全般において、より一層の工夫を期待したい。
- 社会的・職業的自立に向けた教育や法教育、さらには地域を誇りに思う教育等、多様な教育活動を取り入れ、生徒の夢や志の実現を支援してもらいたい。

2 「公立高等学校の協働的な学びの確保に向けた方策」についての提言

<提言>

- (4) 各高校が互いに切磋琢磨することや、地域社会や各高校、各種団体等との連携を通じて、生徒の可能性を広げることにつながる魅力ある協働的な学びを展開していくことを期待したい。
- (5) 部活動や学校行事等、同じ空間で時間を共にすることを通じた生徒同士の関わり合いが協働的な学びの基本となる。必要な教職員数を維持し、学校の活力や多様性を確保するためには、一定の学校規模を確保することが望ましい。
- (6) 将来的な生徒数の減少を見据えて、再編統合による高校の特色化・魅力化を図る視点も必要である。また、高校の適正配置、再編統合の計画や方針を検討するにあたっては、地域振興の核としての高校の役割や、地元地域等に与える影響を十分考慮し、様々な意見を聞いて進める必要がある。

<検討の経緯>

本検討会議では、第4回会議において公立高等学校の協働的な学びの確保に向けた方策について協議した。

今後、D X (デジタルトランスフォーメーション)等の進展に伴い、我々の生活は劇的に変化していくことが予想されている。こうした中、学校教育において、協働的な学びを充実させるためには、I C Tを基盤とした先端技術や地域の教育力等を有効に活用し、教育活動を充実させていかなければならない。

また、部活動や学校行事等、リアルな生徒同士の関わり合いが協働的な学びの基本となると考えられるので、将来的な生徒数の減少を見据えつつ、適正配置や適正規模の維持、さらには再編統合によって、協働的な学びを確保しようとする視点も必要である。

本検討会議では、このような認識のもと、協働的な学びの確保に向けた方策を取りまとめた。

<考え方及び留意事項－提言(4)について－>

- スクール・ミッション、スクール・ポリシーのもと、各高校独自の特色や魅力を持った協働的な学びを創出する必要がある。
- I C Tの活用や学校行事等を通じた各高校の連携によって、協働的な学びを展開していくことを期待したい。
- 地域や各種団体、企業、同窓会の先輩等、学校外の方々と関わる機会を創出し、様々な考え方や価値観に触れ、生徒の可能性を広げてもらいたい。

＜考え方及び留意事項－提言（５）について－＞

- 学校が小規模化することで、必要な教職員数の確保が困難になるなど、学校の活力・多様性が低下し、協働的な学びの機会の確保が困難になることが懸念されるため、教職員数及び生徒数を一定数維持する必要がある。
- 部活動については、集団で活動する部活動を含め、一定数以上の部活動が維持できる学校規模が望ましい。

＜考え方及び留意事項－提言（６）について－＞

- 協働的な学びを確保し、各高校の特色化・魅力化を推進するためには、将来的な生徒数の減少を考慮し、様々な意見を聞いた上で高校の適正配置や再編統合を考える必要がある。
- これまでの本県高等学校の再編統合が、主に専門高校・専門学科を中心に行われたことを考えると、今後は、普通科を中心とした再編統合について検討する必要がある。

3 「公立高等学校の地域の拠点としての施設の利活用の方策」についての提言

<提言>

- (7) 施設の利活用の在り方としては、子どもたちの学びの場としての利活用や、学校施設と社会体育施設や公共施設等とが複合化した施設としての利活用、さらには、企業の誘致につながる利活用等の観点から考えられるのではないかな。
- (8) 将来的な生徒数の減少を見据えつつ、地域等が必要とする利活用の在り方を模索してほしい。また、現存している学校の施設を利活用する際には、施設利用者と学校の双方にとってメリットがあるような利活用の在り方を検討する必要がある。

<検討の経緯>

本検討会議では、第5回会議において、公立高等学校の地域の拠点としての施設の利活用の方策について協議した。

学校は、それぞれの地域の貴重な財産である。再編統合等によって生じた空き校舎等の施設や空き教室を活用し、地域社会の活性化につなげる取組が期待される。そのためには、利活用の在り方について、多様なアイデアを出しながら、有効な方策を生み出すことが大切である。

また、現存する学校施設の利活用を行う際には、施設利用者だけでなく学校側の視点からも利活用の在り方を考える必要がある。

本検討会議では、このような認識のもとで意見交換を行い、自由な発想による施設の利活用のアイデアや、利活用を進める上で考慮すべき点について出された意見を取りまとめた。

<考え方及び留意事項－提言(7)について－>

○必要経費や施設の場所等の制約条件にとらわれず、委員から出された利活用の主なアイデアとして、次のようなものがあつた。

- ・適応指導教室や通信制高校、しらさぎ中学校のサテライト校等、多様な学びに対応できる施設としての利活用。
- ・学童保育や図書館、子ども食堂、障がい者支援施設等、子どもたちをサポートする支援センターや子どもたちの学びの場としての利活用。
- ・スケートボード等の競技に特化した県外から代表レベルの人たちが集まるような施設や、学校施設と社会体育施設等とを複合化した施設としての利活用。
- ・キャンプ初心者のためのキャンプ場や、本県への移住を検討する人の宿泊施設、あるいは小規模校が集って協働的な活動が行える施設としての利活用。
- ・Wi-Fi完備で気軽に使えるコワーキングスペースやサテライトオフィス等、企業への貸し出しや企業の誘致につながる利活用。
- ・体験農園や農業レストラン等、農業拠点としての施設や、教育、市民生活、産業関係等を包括する複合型の公共施設としての利活用。

＜考え方及び留意事項－提言（８）について－＞

- 持続可能な利活用のためには、地元地域や企業と連携するとともに、外部委託を含め、安全管理やセキュリティ対策等の管理運営体制を確立する必要がある。
- 地域住民、行政との協議の場を設けるなどして、早い段階から地元地域のニーズを把握できるよう取り組んでほしい。

新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議開催経過

第 1 回会議 令和 3 年 2 月 2 日(火)

【場 所】 徳島グランヴィリオホテル グランヴィリオホール

【主な内容】

＜事務局説明＞

○本県公立高等学校の現状について

○国の動きについて

＜意見交換＞

○公立高等学校の特色化・魅力化を図るための方策について

第 2 回会議 令和 3 年 3 月 19 日(金)

【場 所】 徳島グランヴィリオホテル ヴィリオルーム

【主な内容】

＜事務局説明＞

○徳島県版「スクール・ミッション」の策定について

○各高等学校のスクール・ミッション(案)

＜意見交換＞

○各高等学校のスクール・ミッション(案)について

第 3 回会議 令和 3 年 5 月 31 日(月)

【場 所】 徳島県庁 大会議室

【主な内容】

＜事務局説明＞

○徳島県公立高等学校・中等教育学校のスクール・ミッション一覧について

○スクール・ミッション、スクール・ポリシーの広報イメージについて

○スクール・ポリシーについて

＜意見交換＞

○スクール・ミッション、スクール・ポリシーの広報について

○スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価等について

第 4 回会議 令和 3 年 8 月 30 日(月)

【場 所】 徳島県庁 大会議室

【主な内容】

＜事務局説明＞

○スクール・ポリシーに基づく教育活動の評価等について

○協働的な学びの確保に向けた方策について

＜意見交換＞

○協働的な学びの確保に向けた方策について

第 5 回会議 令和 3 年 10 月 26 日(火)

【場 所】 徳島県庁 大会議室

【主な内容】

＜事務局説明＞

○地域の拠点としての施設の利活用について

＜意見交換＞

○地域の拠点としての施設の利活用の方策について

第 6 回会議 令和 4 年 1 月 20 日(木)

【場 所】 徳島県庁 大会議室

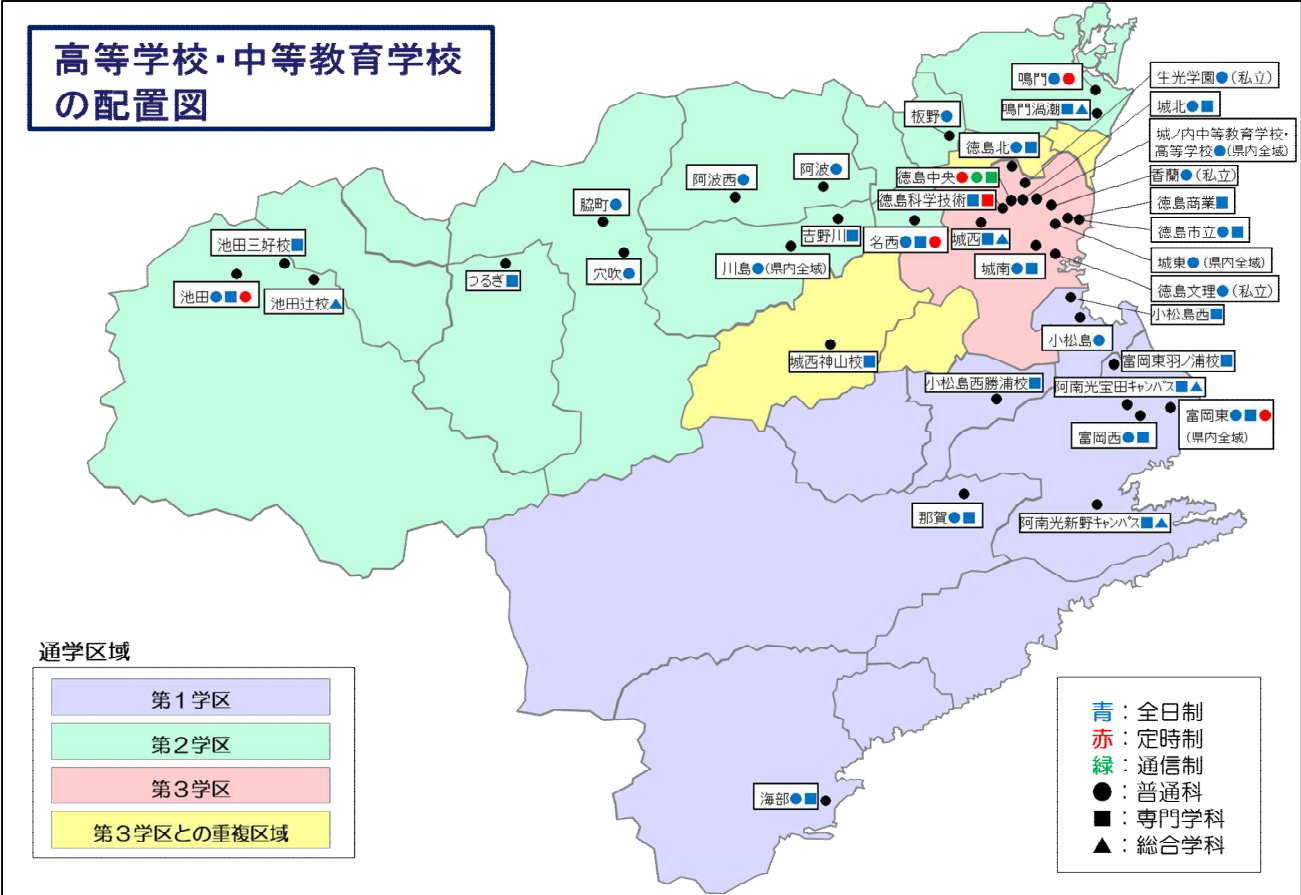
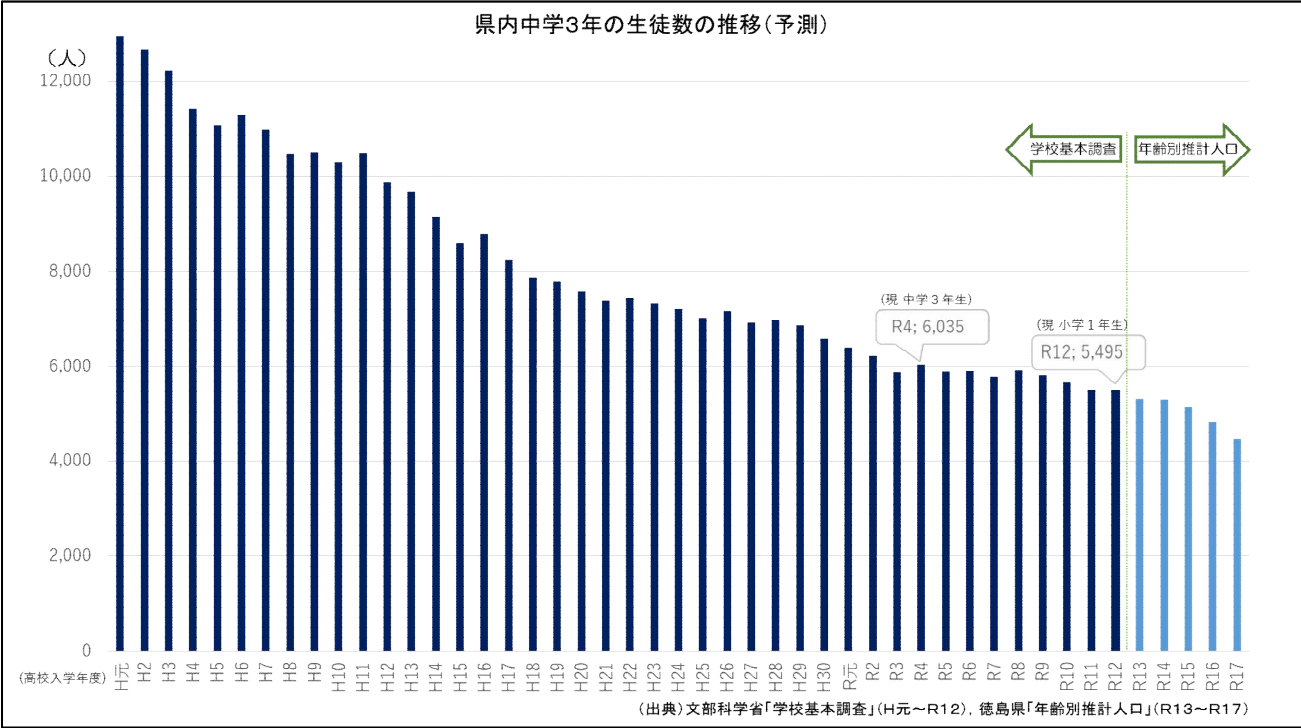
【主な内容】

＜事務局説明＞

○これまでの議論の整理について

＜意見交換＞

○報告書の作成について



公立高等学校・県立中等教育学校及び県立中学校の設置状況

(1) 公立高等学校 全日制の課程

※生徒数は令和3年5月1日現在

	学校名	学科及び類名		令和4年度 募集定員	生徒数	普通	理数	外国語	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉	体育	芸術	総合
1	城東高校	普通		280	829	○												
2	城南高校	普通		280	824	○												
		理数	応用数理	30			○											
3	城北高校	普通		280	820	○												
		理数	理数科学	30			○											
4	城ノ内高校	普通			387	○												
5	徳島北高校	普通		240	877	○												
		外国語	国際英語	40				○										
6	徳島市立高校	普通		280	931	○												
		理数	理数	40			○											
7	城西高校	農業	生産技術	20	504													
			植物活用	25														
			食品科学	25					○									
			アグリビジネス	25														
		総合		75														○
8	城西高校神山校	農業	地域創生類	30	87					○								
9	徳島科学技術高校	工業	総合科学類	60	862													
			機械技術類	70														
			電気技術類	60														
			建設技術類	80														
		水産	海洋科学類	10														
			海洋技術類	20										○				
10	徳島商業高校	商業	ビジネス探究	60	775						○							
			ビジネス創造	190														
11	小松島高校	普通		165	522	○												
12	小松島西高校	商業	商業	60	518						○							
		家庭	食物	70									○					
			生活文化	20														
		福祉	福祉	30											○			
13	小松島西高校勝浦校	農業	応用生産	15	87					○								
			園芸福祉	15														
14	富岡東高校	普通		150	569	○												
		商業	商業	35							○							
15	富岡東高校羽ノ浦校	看護	看護	40	192										○			
16	富岡西高校	普通		155	609	○												
		理数	理数	40			○											
17	阿南光高校	工業	機械ロボットシステム	35	504						○							
			電気情報システム	30														
			都市環境システム	25														
		総合	産業創造	85													○	
18	那賀高校	普通		45	181	○												
		農業	森林クリエイト	20					○									
19	海部高校	普通		60	300	○												
		商業	情報ビジネス	20							○							
		理数	数理科学	30			○											
20	鳴門高校	普通		260	827	○												
21	鳴門渦潮高校	体育	スポーツ科学	60	593											○		
		総合		135													○	
22	板野高校	普通		125	443	○												
23	名西高校	普通		50	321	○												
		芸術	芸術(音楽)	15														
			芸術(美術)	20													○	
			芸術(書道)	10														

	学校名	学科及び類名		令和4年度 募集定員	生徒数	普通	理数	外国語	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉	体育	芸術	総合	
24	吉野川高校	農業	農業科学	15	317				○										
			生物活用	15															
		商業	会計ビジネス	20															
			情報ビジネス	25							○								
			食ビジネス	30															
25	川島高校	普通		110	385	○													
26	阿波高校	普通		170	509	○													
27	阿波西高校	普通		50	162	○													
28	穴吹高校	普通		50	146	○													
29	脇町高校	普通		165	523	○													
30	つるぎ高校	工業	電気	45	485														
			機械	45															
			建設	20															
		商業	商業	25															
			地域ビジネス	20															
31	池田高校	普通		125	488	○													
		理数	探究	35			○												
32	池田高校辻校	総合		45	151													○	
33	池田高校三好校	農業	食農科学	20	91				○										
			環境資源	15															
全 日 制 計				5115	15819	20	6	1	6	3	6	1	1	1	1	1	1	4	

	普通科(含 理数科・外国語科)				専門学科(除 理数科・外国語科)										総合 学科
	普通	理数	外国語	小計	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉	体育	芸術	小計	
令和4年度全日制募集定員 構成比(%)	59.4	4.0	0.8	64.2	4.7	9.2	9.5	0.6	1.7	0.8	0.6	1.2	0.9	29.2	6.6
令和4年度全日制進学希望(令和3年9月調査) 構成比(%)	64.9	4.3	0.7	69.9	2.5	10.1	7.7	0.9	1.8	0.8	0.3	0.8	0.6	25.5	4.6

(2) 公立高等学校 定時制の課程

	学校名	学科及び類名	令和4年度募集定員	生徒数	普通	理数	外国語	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉	体育	芸術	総合
1	徳島科学技術高校	工業	機械類	40	64				○								
			工業技術類	40													
2	徳島中央高校	普通	普通(昼間午前)	60	237	○											
			普通(昼間午後)	30													
			普通(夜間)	40													
3	富岡東高校	普通		40	20	○											
4	鳴門高校	普通		40	43	○											
5	名西高校	普通		40	27	○											
6	池田高校	普通		40	19	○											
定 時 制 計				370	410	5				1							

(3) 公立高等学校 通信制の課程

	学校名	学科及び類名		令和4年度 募集定員	生徒数	普通	理数	外国語	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉	体育	芸術	総合
1	徳島中央高校	普通		※	235	○												
		看護	衛生看護											○				

※募集定員については、制限を設けていない。

(4) 県立中等教育学校及び県立中学校

	学校名	令和4年度 募集定員	生徒数
1	城ノ内中等教育学校	140	554
2	富岡東中学校(併設型中高一貫教育校)	70	239
3	県立川島中学校(併設型中高一貫教育校)	50	126
県立中等教育学校及び県立中学校 計		260	919

最近の高校再編

○海部高校（平成16年4月～）

海南高校
日和佐高校
宍喰商業高校

海部高校
・普通科
・情報ビジネス科
・数理科学科

《校地》海南高校

○徳島科学技術高校（平成21年4月～）

徳島工業高校
徳島東工業高校
水産高校

徳島科学技術高校
・総合科学類
・電気技術類
・海洋科学類
・機械技術類
・建設技術類
・海洋技術類

《校地》徳島工業高校

○小松島西高校勝浦校（平成24年4月～）

勝浦高校

小松島西高校勝浦校
・応用生産科
・園芸福祉科

《校地》勝浦高校

○鳴門渦潮高校（平成24年4月～）

鳴門第一高校
鳴門市立
鳴門工業高校

鳴門渦潮高校
・総合学科（5系列）
・スポーツ科学科

《校地》鳴門工業高校

○吉野川高校（平成24年4月～）

阿波農業高校
鴨島商業高校

吉野川高校
・農業科学科
・会計ビジネス科
・食ビジネス科
・生物活用科
・情報ビジネス科

《校地》鴨島商業高校

○つるぎ高校（平成26年4月～）

貞光工業高校
美馬商業高校

つるぎ高校
・電気科
・商業科
・機械科
・地域ビジネス科
・建設科

《校地》貞光工業高校

○池田高校・辻校・三好校（平成29年4月～）

池田高校
辻高校
三好高校

池田高校・普通科
辻校・総合学科（3系列）
三好校・食農科学科・環境資源科
・探究科

《校地》池田高校，辻高校，三好高校

○阿南光高校（平成30年4月～）

阿南工業高校
新野高校

阿南光高校
・工業科
・産業創造科（5系列）

《校地》阿南工業高校，新野高校

最近の学科再編，新学科の設置等

普通科（含 理数科，外国語科）

年度	高校名	内 容
H16	城ノ内	開校 城ノ内中学校を開校
H18	城南 徳島北 川島	設置 応用数理科 設置 国際英語科 開校 県立川島中学校を開校
H21	富岡西	設置 理数科
H22	富岡東	開校 富岡東中学校を開校
H24	池田	設置 探究科
H27		
H28		
H29		
H30	城北	設置 理数科学科
H31		
R2	城ノ内	開校 城ノ内中等教育学校を開校
R3		

専門学科（除 理数科，外国語科）・総合学科

年度	高校名	内 容
H16		
H18		
H21	貞光工業	学科再編 建設科 (建築科，土木科を再編)
H22	勝浦	学科再編 応用生産科，園芸福祉科 (普通科，園芸科を再編)
H24	城西 徳島商業 阿南工業 三好	学科再編 生産技術科，植物活用科， 食品科学科 (農業科学科を再編) 学科再編 情報処理科，会計情報科， 商業科 (総合情報ビジネス類を再編) 学科再編 機械科，電気科，建設科 (工業類を再編) 学科再編 食農科学科，環境資源科， 情報ビジネス科 (生物資源類，ビジネス類を再編)
H27	辻	設置 総合学科 (情報ビジネス，生活デザイン， 医療・福祉の3系列)
H28	那賀	設置 森林クリエイト科
H29	城西	設置 アグリビジネス科
H30		
H31	城西神山校	校名変更・地域創生類 学科再編 (造園土木科，生活科を再編)
R2		
R3	徳島商業	学科再編 ビジネス探究科， ビジネス創造科 (情報処理科，会計情報科， 商業科を再編)

新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議設置要綱

(設 置)

第1条 徳島県公立高等学校の目指すべき将来像を描くに当たり、最適な高校の在り方を検討するため、「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」（以下「検討会議」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 検討会議は、次に掲げる事項について検討を行う。なお、検討結果については、徳島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に報告するものとする。

- (1) 公立高等学校の特色化・魅力化を図るための方策
- (2) 公立高等学校の協働的な学びの確保に向けた方策
- (3) 公立高等学校の地域の拠点としての施設の利活用の方策

(委 員)

第3条 検討会議は、委員15名以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験者、行政関係者及び学校関係者のうちから、教育長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、第2条に掲げる報告が終了するまでとする。
- 4 欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 長)

第4条 検討会議に、会長1人及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、検討会議を代表し、会議の議長となる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会 議)

第5条 検討会議は、会長が招集する。

- 2 検討会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
- 3 会長は、必要があると認められるときは、委員以外の者に出席を求め、意見若しくは説明を聴くことができる。

(庶 務)

第6条 検討会議の庶務は、徳島県教育委員会教育創生課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討会議の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和3年1月8日から施行する。

新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議委員一覧

令和3年4月1日現在

氏 名	役 職 等
会 長 山 下 一 夫	鳴門教育大学 学長
副会長 坂 田 千代子	一般社団法人徳島経済同友会 代表幹事 株式会社あわわ 会長
荒 木 光二郎	公益財団法人徳島経済研究所 専務理事
市 岡 沙 織	市岡製菓株式会社 代表取締役社長
井 上 浩 子	徳島県立富岡東中学校・高等学校 学校評議員
儀 宝 修	徳島県立徳島科学技術高等学校 校長
近 藤 明 子	四国大学経営情報学部 准教授
瀬 尾 陽 子	徳島県立吉野川高等学校 PTA会長
孝 志 茜	さくら税理士法人 公認会計士・税理士
辻 貴 博	貞光食糧工業株式会社 代表取締役社長
西 村 智 子	川城・西村法律事務所 弁護士
福 谷 あずさ	ケーブルテレビ徳島株式会社 コンテンツ事業部編成グループ 係長
分 木 秀 樹	公益財団法人徳島県スポーツ協会 専務理事
松 本 賢 治	徳島県市町村教育委員会連合会 会長 徳島市教育委員会 教育長
結 城 栄 子	吉野川市立川島中学校 校長

※ 会長、副会長以外は50音順 敬称略

公立高等学校

〈全日制課程〉

学校名	学科名	スクール・ミッション
城東	普通	県内全域から集まる仲間と切磋琢磨する環境の中で、グローバルな企業・大学との連携による「企業研修」・「海外研修」・「探究活動」など、将来を見据えた教育活動をとおり、国内外で活躍できる「グローバル人財」に必要な力を育成します。
城南	普通 理数	県内で最も古い歴史と伝統の中で培われてきた「自主自立」の精神のもと、応用数理科の課題研究と、そのノウハウを活用した普通科の探究活動などをとおり、「未来を切り拓くイノベーター(革新者)」として必要となる力を育成します。
城北	普通 理数	「地元大学・企業との連携」のもとで行うSDGsに関する探究活動や、徳島ならではの「伝統文化の継承」活動、個に応じた多様な選択科目の学習などをとおり、豊かな社会生活の実現に貢献し、将来の徳島をけん引するために必要な力を育成します。
徳島北	普通 外国語	英語教育をリードする学校として、英語の4技能をバランスよく高める授業や大勢のALTと英語のみで過ごす「English Day」、海外語学研修などの活動をとおり、国際的視野を持った「グローバル人財」に必要な力を育成します。
徳島市立	普通 理数	「真に自由で清新な校風」を理念とする県内唯一の市立高校として、徳島市内外の恵まれた人的・物的資源を最大限に活用した教育活動をとおり、「学問・スポーツ・芸術」における探究的・創造的イノベーター(革新者)やアスリート・アーティストとしての力を育成します。
城西	農業 総合	「6次産業化教育の基盤となる農業教育」や、「人文・情報・ビジネス・自然・生活・福祉」から選択できる総合学科の特長を生かして、一人ひとりの個性・可能性を伸ばし、地域産業を支えるために必要となる力を育成します。
城西 神山校	農業	神山町や地域企業との連携のもと、「まち全体を学びの場」とした「食・農・環境」に関する教育活動をとおり、農業の専門的な知識・技術を習得し、自ら主体となって地域が抱える諸課題を解決する力や地域産業を支える力を育成します。
徳島 科学技術	工業 水産	工業科・水産科の6類11コースにおいて、進学と就職に対応した「ハイブリッド型教育システム」を生かして、「将来の産業界を担う高度技術者」や「地元産業界を支える実践技術者」に必要な力を育成します。
徳島商業	商業	変革と挑戦を続ける伝統ある商業高校として、カンボジアとのフェアトレード商品開発をはじめとした「エシカル消費」活動などをとおり、「グローバル」な視点を持ってビジネス界で活躍できる力を育成します。

学校名	学科名	スクール・ミッション
小松島	普通	自分の物語をつづっていくキャリア・パスポート「未来手帳」や、生徒が教師役となる「生徒授業」、「松原育樹ボランティア」など、生徒主体の活動をととして、地域の経済活動や社会生活を豊かにする実践力を育成します。
小松島西	商業 家庭 福祉	「ビジネス・食・アパレル・福祉」に関する専門的な知識・技術を習得するとともに、実社会で活躍するプロによる講習や地域行事への参加など体験活動をととして、幅広い視野を持って地域社会に貢献するために必要となる力を育成します。
小松島西 勝浦校	農業	「ゆこう」を使った商品開発や「檜原の棚田」の保全活動など地域の資産を生かして、野菜・果樹や草花の生産・栽培と環境保全に関する専門的な知識・技術を習得し、人とのつながりを大切にする心と、地域産業を支える力を育成します。
富岡東	普通 商業	「さわやかで活力あふれる富東」の理念のもと、探究活動に力を入れる普通科と地域と連携して実践力を養う商業科の生徒が、学校行事や部活動などで切磋琢磨し、併設中学校の生徒とも交流できる環境を生かして、国内外で活躍できる力を育成します。
富岡東 羽ノ浦校	看護 専攻	「看護の道」を志す者としての豊かな心を育み、専門的な知識・技術を習得できる「5年一貫」の教育環境を生かして、生涯にわたり学びの姿勢を持った、社会に貢献できる看護師として必要となる力を育成します。
富岡西	普通 理数	グローバル企業や国内外の大学、地域との連携のもと、情報分析や考察を行う「科学的探究活動」や、地方創生をテーマにした「探究活動」などをととして、「地域社会をイノベーション(革新)」する実践力を育成します。
阿南光	工業 総合	「農工商が一体化」した専門教育を行う高校として、「徳島大学サテライトキャンパス」を置く新野キャンパスでの高大接続教育や、地元企業などとの連携により、6次産業化に対応し、ものづくりを重視した教育活動をととして、地域の未来を創造する力を育成します。
那賀	普通 農業	那賀町など関係機関との連携のもと、進学と就職に対応する「3つのコース」を持つ普通科と、林業機械操作などの資格取得や実習により「林業のスペシャリスト」をめざす森林クリエイト科の特長を生かして、地域産業など社会に貢献できる力を育成します。
海部	普通 商業 理数	県内外から集う仲間とともに、「SDGsを軸とした地域学習(海部学) ^{あまべがく} 」や「オンライン英会話」、「起業体験」など、多様なニーズに対応した教育活動をととして、地域の未来を担うために必要となる力を育成します。

学校名	学科名	スクール・ミッション
鳴門	普通	大学教員の特別講義や大学院生によるサポートなど「鳴門教育大学との連携」や、『ボランティア学特講』など学校独自に設定した多様な科目を生かして、グローバルな視点を持って地域社会に貢献するために必要となる力を育成します。
鳴門渦潮	体育 総合	県立高校唯一の「スポーツ科学科」と、選択できる系列(コース)数と授業時間数とが県内で最も多い「総合学科」の特長を生かして、国内外で活躍するトップアスリートとしての力や地域を支えるために必要となる力を育成します。
板野	普通	お接待をはじめとする「ボランティア活動」や、1年次に取り組む「インターンシップ」など、地域との連携による様々な活動をとおして、人とのつながりを大切にする心と、広く社会に貢献できる力を育成します。
名西	普通 芸術	「文化芸術リーディングハイスクール」として、プロの芸術家などから指導を受ける機会を生かして、普通科と芸術科の生徒が互いに感性と能力を磨き合い、社会生活を豊かにするための創造力やトップアーティストとしての力を育成します。
吉野川	農業 商業	食の安全・安心に配慮した「生産・加工・販売・店舗経営」など、「農業・商業の連携教育」のもと、専門的な知識・技術を習得できる教育環境を生かして、地域産業を支えるために必要となる力を育成します。
川島	普通	中学生と高校生が学校行事や部活動で交流するなど、「併設型中高一貫教育校*」ならではの互いに認め合い切磋琢磨できる環境や、「海外語学研修」などの国際交流の機会を生かして、グローバルな視点を持って地域社会に貢献できる力を育成します。 *市町村立中学校と県立川島中学校から入学します
阿波	普通	地元自治体や企業などと連携した「地域探究活動」における、「環境問題」をはじめとしたSDGsの実現に向けた課題解決学習などをとおして、自己の未来をデザインしようとする主体性と、経済活動や社会生活を豊かにする力を育成します。
阿波西	普通	「地元中学校との連携」や、地域のニーズに対応した「福祉やビジネス、アカデミック(学術)の3コース制」、「少人数学習」などの特長を生かして、人とのつながりを大切にする心と、地域を支えるために必要となる力を育成します。
穴吹	普通	「地域との連携」や徹底した「少人数学習」のもと、『ふるさと探究』や『楽しい実験』など学校独自に設定した多様な科目を生かして、一人ひとりの個性や可能性を伸ばし、地域社会が抱える諸課題の解決能力など社会に貢献できる力を育成します。
脇町	普通	全教科・科目で取り組む「協働的問題解決学習」と、県内外の大学や地域との連携によるビッグデータやIoT/AIを活用した「課題研究」などをとおして、科学的・論理的思考力を培い、各分野で活躍できる力を育成します。
つるぎ	工業 商業	地域に根ざした工業教育・商業教育の連携のもと、「充実したICT教育環境」を生かして、確かな学力と専門的な知識・技術を習得し、地域社会の発展に貢献する「スペシャリスト」として必要となる力を育成します。
池田	普通 理数	地元自治体や大学、企業、四国他県の高校などとの連携のもと、「フィールドワーク」を積極的に取り入れた「探究活動」をとおして、地域が抱える課題を発見・解決し、地域の未来を担うために必要となる力を育成します。
池田 辻校	総合	「商業・生活・医療福祉」の3系列のもと、進路に応じて『ビジネスマナー』や『レクリエーションスポーツ』など多様な科目から選択できる「総合学科」の特長を生かして、地域を支えるために必要となる力を育成します。
池田 三好校	農業	「夏秋イチゴ」や「ホンシメジ」など、地域と連携した「ブランドの創出につながる農業教育」の特長を生かして、人間力と創造力を培うとともに、県西部の農業と林業を中心とした地域産業を支えるために必要となる力を育成します。

〈定時制課程・通信制課程〉

学校名	学科名	スクール・ミッション
徳島 科学技術	工業	適性や進路希望に応じた少人数での「機械、電気、建築」の学習や、「資格取得」に向けた学習などをおして、工業の専門分野に関する知識・技能を伸ばし、地域社会や産業界に貢献できる実践的な技術者に必要となる力を育成します。
徳島中央	普通 ※通信制は 普通・看護	「定時制の昼間部(午前・午後)と夜間部、通信制」の多様な学習形態から自分に合ったスタイルを選択するとともに、少人数学習のもと、「各課程」や「しらさぎ中学校」との連携、「地域貢献活動」などをおして、社会的・職業的自立に必要な力を育成します。
富岡東	普通	「星空教室」、「自然文化体験活動」などの学校独自の行事や、家庭科、商業科の選択科目などから生活に役立つ知識を少人数で学ぶこととおして、これからの時代に求められる社会人としての力を育成します。
鳴門	普通	少人数の「家庭的な雰囲気」の中、様々な目標を持つ仲間が互いに切磋琢磨しながら友情を育むとともに、それぞれのニーズに応じて学習することとおして、夢の実現に必要な力を育成します。
名西	普通	少人数でのニーズに応じた学習や、地元起業家を講師とした進路講演会などの「キャリア教育」をおして、能力・可能性を伸ばし、これからの時代に求められる社会人としての力を育成します。
池田	普通	少人数での一人ひとりの適性に応じたきめ細やかな学習や、「環境美化活動」などの地域や関係機関と連携した活動をおして、地域社会を支える人財として必要となる力を育成します。

中等教育学校

学校名	学科名	スクール・ミッション
城ノ内	後期課程は 普通科	県内唯一の中等教育学校として、「6年間」を見通したカリキュラムのもと、「先取り学習」や「国内外の中高一貫教育校との交流」、中高の切れ目のない部活動などをおして、社会が抱える諸課題を解決できる力を育成します。